



男女共同参画推進委員会

第125回

「防災に必要な多様性と平等」

安中市男女共同参画推進委員会委員

山田 公子



災害時の避難所はどうあるべきでしょうか。あなたが運営委員ならどう配布しますか。①避難者よりも少ない数のリンゴが届きました。②生理用品が届きました。実際にあった事例です。①配らないで捨てることになった。②年齢に関係なく全ての女性に種類ごとに同じ数を配った。違う選択が出来なかった理由は、年配の男性しかない運営委員が平等でなければならぬと考えたからです。

避難所の訓練をするときに「運営委員は年代が偏らないようにして、外国籍など多様な人を入れること。そして必ず半分を女性にすること」と指示されます。災害時は地域の問題が大きく浮き彫りになります。群馬県の自治会長に女性が占める割合は全国最下位です。そのため防災対策の意思決定過程に女性の参画が確保されています。このまま災害が起こると、女性だけでなく子どもや高齢者などにも居づらい避難所になることが過去のデータで分かっています。防災士としてそれを知ってほしくて最初の質問をしました。①のように食料が少ない

のは避難所では普通です。調理を工夫して無駄にしない知恵を出し合うことが必要です。調理の経験がある男性が運営委員にいれば違う結果になったと思います。また、②のような女性だけに必要な物の配布は女性があるべきです。生理用品は配布ではなく「必要な人が使ってください」と表示して女性のお手洗いに置いておけばよいのです。

平等とは数を同じにすることでではありません。誰でも意見を言えて取り上げてもらえる仕組みが機能していることです。人は災害時にはより被害が大きい人に遠慮して我慢するようになります。健康に直結するお手洗いを例にしてみます。女性用は男性用の3倍の数が必要です。女性だけ行列していた話はよく聞きます。また夜間も安全に使えるために照明や設置場所を考える必要もあります。あなたが困っていることはきつと他の誰かも困っています。女性にも自分の意見を言うことに普段から慣れてほしいと思います。

公的援助は限りがあります。届くまでに3日から1週間はおかると予想されています。消耗品は食品と同じで多めに買って古い順に使っていくことで備えになります。マスクや消毒液なども、この『日常生活しながら備蓄』がおすすです。また支援物資を誰から配るか事前に地域で話し合っておくと、防災の心構えができます。妊婦、高齢者、幼児、障害者など誰からが良いか考えてみてください。

問合せ▶困地域創造課市民協働係(☎内線1027)

安中市消費生活センターからのお知らせ

親のカードでオンラインゲームに高額課金！

【事例】

小学生の息子が、家族共有のタブレット端末で、オンラインゲームの有料アイテムを数日間のうちに次々に購入し、総額150万円以上も課金していた。タブレット端末には、父親のクレジットカード情報が登録されたままになっており、子どもが使う際も、利用できるようになっていた。



【ひとことアドバイス】

- ★親が知らない間に子どもが無断でオンラインゲームに課金してしまったという相談が多く寄せられています。
- ★スマートフォンやタブレット端末などにクレジットカード情報を登録したままにしておくと、子どもが端末使用時に自由に課金できてしまいます。保護者は、カード情報を削除しておくなど、クレジットカードの管理を適切に行いましょう。

- ★クレジットカードの利用ごとにメールなどで通知されるよう設定し、日ごろから状況を確認しましょう。
- ★子どもが使う端末ではペアレンタルコントロールなどを利用し、購入・支払いなどの制限をかけることも有効です。(国民生活センター発行「子どもサポート情報」第167号から作成)

【問合せ】

わからないことや困ったこと、少しでも不審に感じるものがあつたら、早めに市消費生活センターにご相談ください。(☎38212228)

相談日時▶月～金曜日(祝日を除く)午前9時～午後4時30分